

地域包括ケア連携拠点チームかまいし

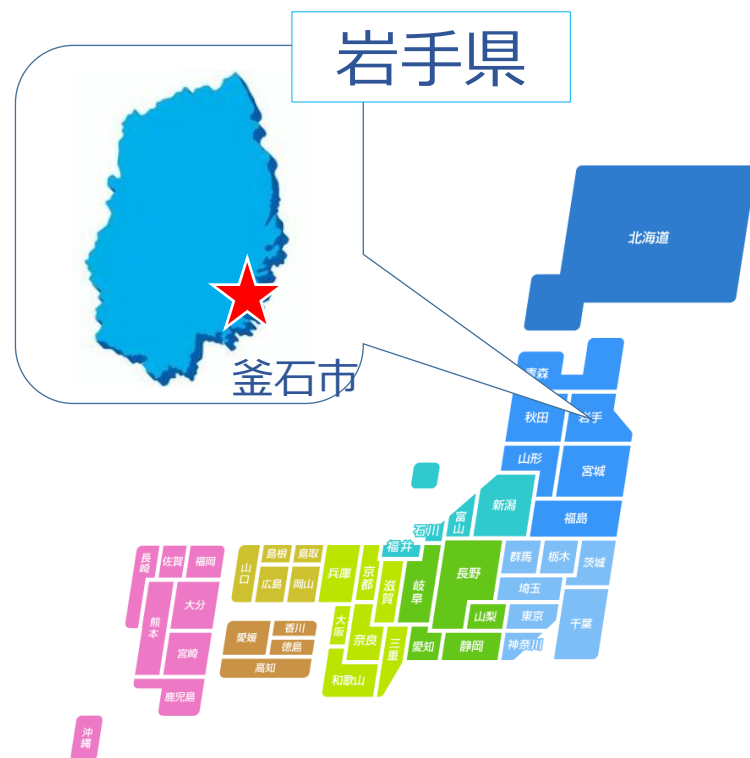
釜石市の在宅医療・介護連携推進事業

令和8年9月24日

釜石市地域包括ケア推進課

課長 小田島史恵

(自治体系、非専門職、基幹型コーディネーター)



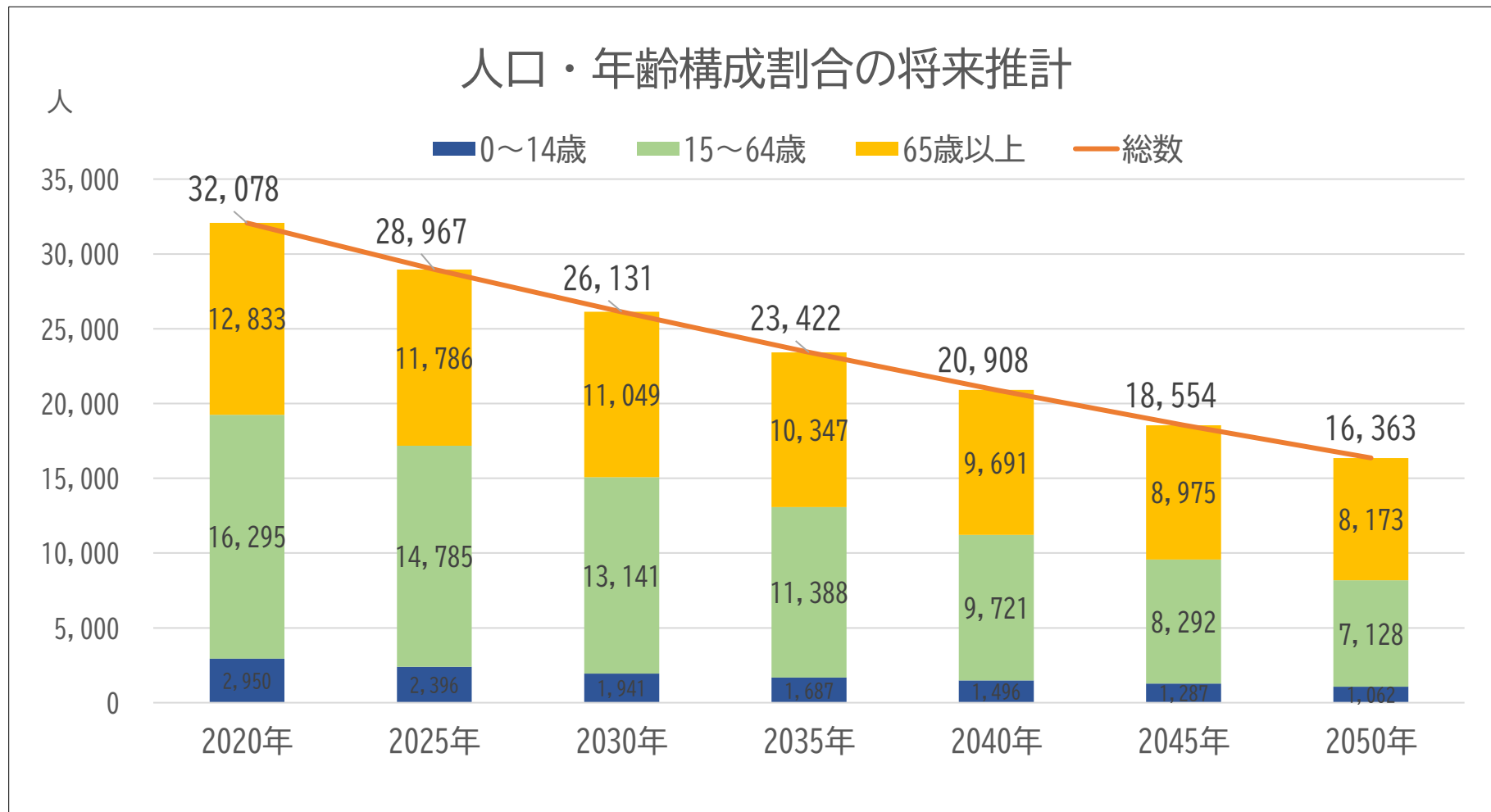
釜石市の人口の推移と将来推計

○釜石市の人口

1963年：93,123人⇒ 2026年：27,745人

○釜石市の高齢化率

41.3%（2026年）



出典：2020年は国勢調査の数値 2025年以降は、国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口
（令和2年国勢調査の数値を基礎として算出）

R7釜石市保健福祉部

地域福祉課

- 地域福祉係
 - ・地域福祉計画
 - ・重層的支援体制整備事業
 - ・避難行動要支援者対策
 - ・恩給援護、民生委員、更生保護、災害援護資金 ほか
- 障がい福祉係
 - ・障害福祉計画
 - ・自立支援
 - ・地域生活支援
- 保護係
 - ・生活保護
 - ・生活困窮

地域包括ケア推進課

- 推進係(狭い意味のチームかまいし)
 - ・地域域ケア推進会議
- ・在宅医療・介護連携推進事業
- ・生活支援体制整備事業
- ・多機関協働事業(重層)
- ・保健師の統括
- ・市保健医療福祉調整本部
- 高齢福祉係
 - ・介護保険(保険料・認定ほか)
 - ・老人福祉
- 地域包括支援センター
 - ・認知症初期集中支援チーム

アドバイザー
派遣

釜石医師会

健康推進課
(地域医療対策室)

こども家庭課
(こども家庭センター)

R8釜石市保健福祉部

●福祉政策係
R7地域包括ケア推進課
「推進係」と
R7地域福祉課「地域福祉係」の業務が合体

総合福祉課

- 総合福祉係
 - ・高齢者福祉
 - ・障がい福祉
 - ・介護保険事業計画
 - ・介護保険給付・認定
- 地域包括支援センター
(直営1カ所)
 - ・介護保険法に基づく
地域包括支援センターの
各種業務
 - ・生活保護、生活困窮

地域包括ケア推進課

- 福祉政策係
 - ・地域福祉計画
 - ・地域ケア推進会議
- ・在宅医療・介護連携推進事業
 - ・重層的支援体制整備事業
 - ・生活支援体制整備事業
 - ・避難行動要支援者対策
 - ・保健師等の統括
 - ・旧地域福祉系の業務
- 地域支援係
 - ・各分野保険福祉事業への支援

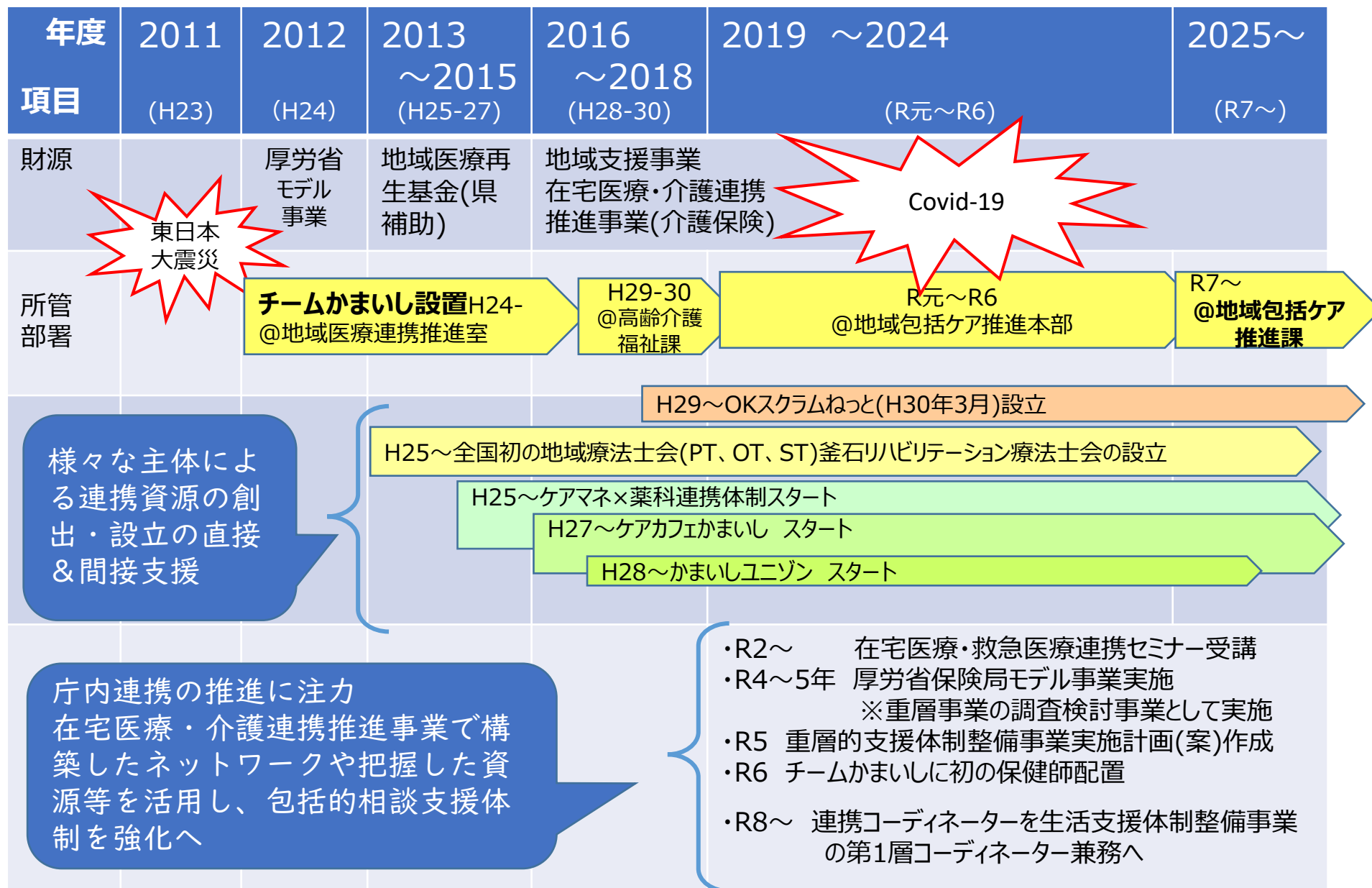
アドバイザー
派遣

釜石医師会

こども家庭センター

健康保険課
(地域医療対策室)

地域包括ケア連携拠点チームかまいしと地域包括ケアシステムの充実



地域包括ケア連携拠点チームかまいし

●H24年7月～厚労省モデル事業「在宅医療連携拠点事業」の採択を契機として、市の所管事務としてスタート

●目的：**地域包括ケアシステムの充実**

・切れ目のない医療と介護の提供体制の構築

●特徴：

- ①医師会からアドバイザー（医師）が派遣
- ②一次～三次の階層別・職種別・機関別に連携を推進
- ③連携の課題を抱える当事者が主体となる取組を支援
- ④市の担当者が連携コーディネーターとして従事

●コーディネーターの役割：

患者・利用者の生活の質の向上のため

多職種（連携の当事者）の専門性が発揮できる環境や関係性を整えること

⇒連携の当事者が課題解決に必要とする資源の調整やネットワークの構築を支援



釜石市の地域包括ケアシステムの充実に資する

連携推進のためのコーディネーター と兼務する主な業務

令和8年度「地域包括ケア連携コーディネーター」

●基幹型コーディネーター 課長×1

●現場型コーディネーター

【主担当】主幹×1

- ・生活支援体制整備事業 第1層コーディネーター
- ・避難行動要支援者対策事業、市保健医療福祉調整本部、ほか

【副担当】主幹（統括保健師）×1

- ・生活支援体制整備事業 第1層コーディネーター、多機関協働事業、ほか

【副担当】係長級（保健師）×1 NEW

- ・地域包括支援センター、避難行動要支援者対策事業、ほか

【副担当】主査×1 NEW

- ・重層的支援体制整備事業、民生委員、ほか

在宅医療・介護連携推進事業の推進のため、コーディネート機能（多職種連携や人材育成）を担う市職員

第2章 市町村における事業の進め方

(2) 庁内の組織づくり（実施体制）

〈人材育成〉 P10～

- 事業の継続性、質の確保の観点から、職員のキャリアパスや、継続性を持った人員配置等に配慮することで、介護保険部門のみならず、医療費（診療報酬）を含めた医療制度や社会福祉の視点を持つ保健医療福祉の横断的な知識と専門性を持つ、人材を養成し、配置することも重要である。その際、行政内において医療の知識を有し、地域アセスメント、医療・介護の関係団体との調整、健康施策の企画・立案等を行う保健師等の専門職を活用する等など、総合的に地域包括ケアシステムを推進することができる人材を育成・配置していくことが望ましい。

P11から抜粋

チームかまいしのコーディネーターの業務 「旧ア～ク」

釜石市
4つの場面
目指す姿

① 日常の療養支援

医療と介護の両方を必要とする高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らすことができる。

② 入退院支援

一体的でスムーズな医療・介護サービスが提供され、医療と介護の両方を必要とする本人が希望する場所で望む日常生活が過ごせる。

③ 急変時の対応

医療・介護・消防(救急)が円滑に連携することにより、本人の意思を尊重したうえで急変時に適切な対応ができる。

④ 看取り

人生の最終段階における本人が望む場所での看取りが実施される。

目指す姿を念頭に、旧【ア】から【ク】を実施

【ア】地域の医療・介護の資源の把握	医療・介護資源リスト&マップの作成と公開（随時更新）、各種調査の実施、社会的処方実践に向けた参加資源（インフォーマルサービス等）の把握とリスト化、地域連携だより発行に伴う取材
【イ】連携の課題の抽出と対応策の検討	● 職能団体毎の打ち合わせ会（一次連携） ● 複数職種での課題対応策検討（二次連携） ● 協働事業実施後の反省会（一次連携・二次連携） 相談内容の積み上げ、地域ケア会議の活用、将来の人口動態等データの活用、各種アンケート調査の実施
【ウ】切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築	《目指す姿》患者・利用者の生活の質の向上のための【ウ】 ● 地域のコンセンサス形成 & 共有の機会となる各種会議等の開催（三次連携） ● 【イ】で把握した課題解決支援（二次連携ほか）
【エ】医療・介護関係者の情報共有支援	地域医療情報ネットワーク「OKはまゆりネット」構築・運用支援 【取組の見える化】市広報・HP活用、地域連携だよりの発行、Facebookの活用
【オ】連携に関する相談支援	多職種向け連携に関する相談窓口設置 主に職種間・組織間等の 連携に関する相談 に対応
【カ】医療・介護関係者の研修	● 課題解決支援の事業・ニーズのマッチングによる課題解決策の実施(二次連携、三次連携)、単独主催事業、多職種協働事業
【キ】地域住民への普及啓発	在宅医療普及啓発パンフ作成・活用、市HP & 広報誌の活用、ACP等市民公開講座、生涯学習まちづくり出前講座、地域づくりフォーラム、等
【ク】市町村の連携	釜石・大槌定住自立圏構想ほか市町村を構成員とする会議等に資する担当者レベルの情報共有・意見交換の推

※令和2年9月に改訂された「在宅医療・介護連携推進事業の手引きver3」では、【ク】は都道府県の役割に変更されていますが、当市では引き続き取組み項目としています。

現状把握・分析、課題
抽出・分類、施策立案

対応策の実施または
実施支援、見える化

出典:手引きver.4（下線語句は演者が加筆）

釜石市
4つの場面
目指す姿

①日常の療養支援

医療と介護の両方を必要とする高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らすことができる。

②入退院支援

一体的でスムーズな医療・介護サービスが提供され、医療と介護の両方を必要とする本人が希望する場所で望む日常生活が過ごせる。

③急変時の対応

医療・介護・消防(救急)が円滑に連携することにより、本人の意思を尊重したうえで急変時に適切な対応ができる。

④看取り

人生の最終段階における本人が望む場所での看取りが実施される。

目指す姿を念頭に、旧
【ア】から【ク】を実施

【ア】地域の医療・介護の資源
医療・介護資源リスト&マップの作成と公開（随時更新）、各種調査の実施、社会的孤立の実態に合わせた資源（公・民・ボランティア）の活用

【イ】連携の推進と対応
等

【ウ】在宅医療・介護体制の構築
推進

●【イ】で把握した課題解決支援（二次連携ほか）

【エ】医療・介護関係者の情報共有
支援

【オ】連携の推進と対応
実

【カ】医療・介護関係者の研修
実

【キ】地域住民の啓発
実

【ク】市町村の役割
資

チームかまいし（コーディネーター）の連携手法

～一次～三次の階層別連携コーディネートと課題解決支援～

【一次連携①】

コーディネーターと一職種の連携

- ・ヒアリング ・**顔（腹・腕）の見える関係づくり**
 - ・連携の課題共有 ・課題解決策検討
 - ・事業の打合せ・実施・反省会
～連携の土壌づくりとタネまき～
- ➡職種内課題解決のための取組支援

連携の課題解決支援

一次連携等※の結果、様々な主体が実施する課題解決策の支援を①②③等の場を活用して実施
～解決策・手法・場などの提案と協働～

※連携に関する相談窓口設置

【二次連携②】

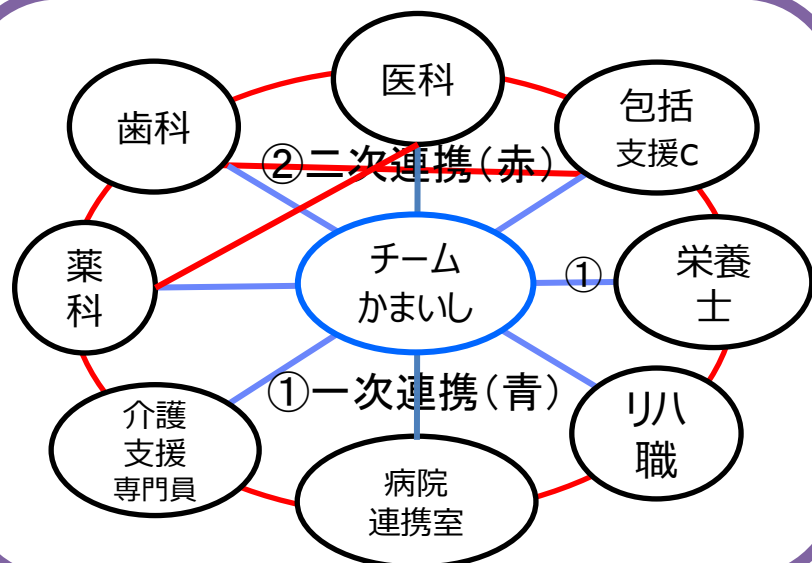
コーディネーターが仲介する連携

- ・ニーズのマッチング ・相互理解の場
ex.情報交換会、同行訪問
- ➡協働に基づく、課題解決のための連携支援

【三次連携③】

多職種による連携・理解促進の場

➡地域のコンセンサス形成・理解促進



③三次連携

チームかまいし（コーディネーター）の連携手法

～一次～三次の階層別連携コーディネートと課題解決支援～

【一次連携①】

コーディネーターと一職種の連携

- ・ヒアリング
- ・連携の
- ・事業の

➡職種

連携の課題解決支援

地域包括ケア連携

取組の主役（主体）は、
多機関・多職種

チームかまいし（コーディネーター）の役割は、

- ・課題解決支援（各種調整）
- ・事業実施の際には出来れば黒子役に

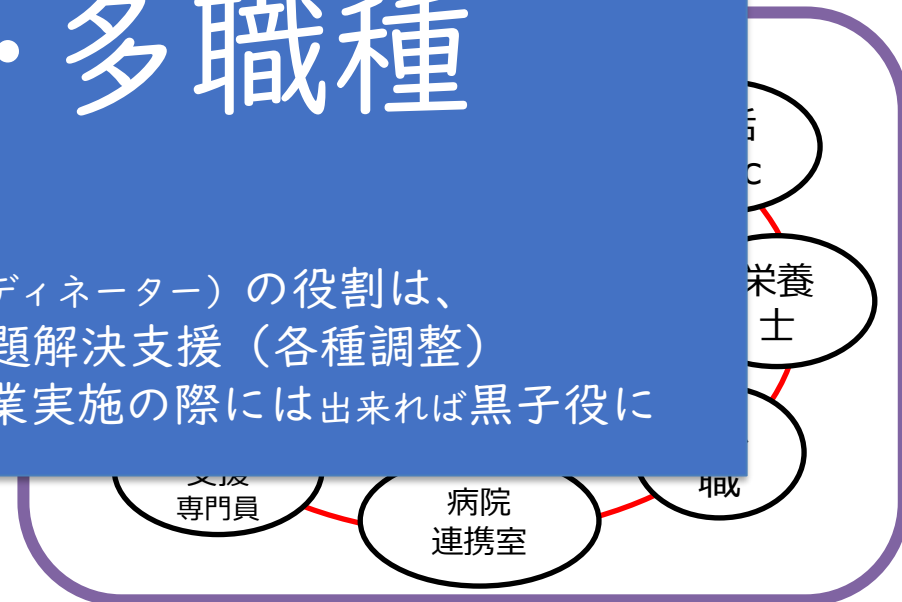
【二次連 コーディネ

- ・ニーズ
 - ex.情報交
- ➡協働に

【三次連

多職種による連携・理解促進の場

➡地域のコンセンサス形成・理解促進



③三次連携

《三次連携》 多職種が一堂に会する機会 ～コンセンサス形成・共有の場～

地域包括ケアの担い手となる職能団体や施設の代表等
が集まる会議等の開催

◆連携拠点設置当初◆
多職種連携の第一歩

顔の見える関係づくり

【課題!!!】

多職種が一堂に会しても

課題解決のための
現場レベルの連携
プロジェクトは進まない

◆釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会
⇒R7～釜石市地域包括ケア連携拠点事業推進協議会

◆釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会
(釜石医師会との合同開催)

三次連携 はじめのポイント

地域の各団体・職種のトップから
「連携拠点」の取組に対するコンセ
ンサスを得る。



《一次連携》アイスブレイクのあるヒアリング～連携の土壌づくりとタネまき～

各職種の事情を言い出せる顔の見える関係づくり
会議ではなく**打ち合わせ**。笑いも絶えません (^^)b

H24_歯科医師会と



H25_リハ士会と



～発言は部外秘です～
他の職種の目を
気にせず発言できます

H25_
連絡協



スタンスは、
「わからないので教えてください」

一次連携は連携の基盤です。
事業推進の土台となります。

- ・H24_薬剤師会
- ・H25_訪問看護ステーション
- ・H26_病院連携室（急性期）
- ・H26_病院連携室（慢性期）
- ・H27_地域包括支援センター(直営)
- ・H29_介護認定係（市・町）
- ・H29_介護施設連絡協議会
- ・R02_生活支援コーディネーター（社協）
- ・R02_保健師（市）
- ・R02_消防本部（市町行政事務組合）
- ・R03_地区生活応援センター所長
- ・R03_市社会福祉協議会
- ・R06_生活保護係（市）
- ・R07_相談支援事業所（障がい）

※冒頭の数字は初回年度

連携コーディネーターの
顔と腕の知ってもらう機会です。

チームかまいしの連携コーディネート手法・二次連携

- ✓ 二次連携は、一次連携で抽出された課題の解決のために複数職種チームで連携する。連携のコーディネートづくりを行う。

- ✓ 連携し

ニーズに応じた
取組の実施を支援します

協働

◆課題

- ・国
- ・2

- ・2職種または多職種情報交換会、意見交換会
- ・他自治体等からの視察対応
- ・学会等共同発表



同行訪問



視察対応



研修会



情報交換会



共同発表

一次連携と二次連携における コーディネーターの Mission

一次連携では

- 人を知ろう! 相手立場を理解しよう! 自分を知ってもらおう!
 - ・コーディネーター個人にとってのキーパーソン※を見つけましょう。
※教えてくれる人、協力してくれる人、相談に乗ってくれる人

● 各職種の『連携の課題』を知ろう!

例:職種Aとの一次連携

「職種Bが〇〇してくれると自分たち（職種A）は、もっと患者・利用者を支えられるのに…」

二次連携では

- コーディネーターはつなぎ役
例:職種AとBのお見合いの場を設定してみましょう。
- コーディネーターは不足する役割を
担いましょう。
その結果、主催者なみの事務量、労力となる
場合も多々ありと心得て。



チームかまいし
コーディネーター

チームかまいしの連携コーディネート手法・三次連携

- ✓ 三次連携は、多職種が一堂に会する機会です。
- ✓ 当地域の包括ケアに関する**コンセンサス形成の場**であり、**共有の場**でもあります。
 - ①各職能団体や施設の代表等が集まる会議を開催(開催支援も含む)しています。
 - ②多職種を対象とした研修会(※1)を開催しています。

※1 地域の連携推進に関するコンセンサスや取組み等を共有する場

～主な「三次連携」の機会～

◆釜石市在宅医療連携推進事業推進協議会	本部)
◆釜石市在宅医療連携推進事業推進協議会	本部)
◆(釜石市在宅医療連携推進事業推進協議会)	～(医師会)
◆釜石市在宅医療連携推進事業推進協議会	～(病院)
その他	
例：歯科医師会主催多職種対象「歯科・他職種」連携推進研修会	

三次連携 ポイント_2

取組結果の地域の関係者への共有も
三次連携の重要な役割です。
PDCAの「Cの一部」



チームかまいしの連携コーディネート手法・研修会の開催支援課題解決支援

◆チームかまいし多職種連携推進支援事業

一次連携で抽出された課題や相談窓口に寄せられた課題の解決策など、職能団体等が主催する研修会等の開催を支援しています。

メリット①	ニーズに基づいた研修を実施できる。
メリット②	経費、労力の負担軽減、有効活用
メリット③	コーディネーターと職能団体等との連携の推進
デメリット？	単独主催と比べて関係者の調整等に労力を要する。

【開催支援の例】

- ・医科歯科連携研修会
- （講師派遣、
- ・三師会学術講演会
- ・薬科・リハ合同研修会
- ・介護支援専門員研修会
- ・患者のための薬学講座

（検討会・報告会運営協力、連絡調整、ほか）

★二次・三次連携 ☆相談支援

目的は、事業実施ではなく
連携体制の構築
この手間にこそ意味がある

◆連携拠点の主な役割◆

解決策の場と手法の提案
持ち込み企画に対する相談対応
講師派遣、他職種への周知、
参加者とりまとめ、当日運営、
アンケートとりまとめ、ほか

- ・事前打ち合わせにより役割を分担
- ・要所要所で進捗共有、再調整



リハ一次連携



事前打ち合わせ



薬科・リハ合同研修会

チームかまいし多職種連携支援事業 チームかまいしの役割分担例_1

	2/23県釜市民公開講座 そろそろ、うちでも「人生会議」	1/22薬局ビジョン報告会 「多職種連携セミナー」
主 催	県立釜石病院	県薬剤師会、釜石薬剤師会
対 象	多職種、一般市民	薬剤師会会員、他職種
実施前	・主催者との連絡調整 ・実施要項作成に係る相談対応 ・チラシ作成に係る相談対応 ・会場選定、借り上げ、使用料負担に係る準備 ・広報かまいし原稿作成および掲載による周知 ・チームかまいしHPによる周知 ・地域連携だより記事掲載及びチラシ同封による周知 ・庁内メールによる周知（県釜作成開催案内のほか厚労省のACP普及啓発チラシを添付） ・保健福祉センター及び各公民館へのチラシ設置による周知	・報告会開催日設定に係る調整 ・関係者連絡調整 ・文書作成と郵送等による関係機関への周知 ・他職種の参加者とりまとめ⇒主催者へ報告 ・アンケート用紙作成 ・司会進行表作成 チームかまいしが担当した 事務のみ記載しています
当日	・会場設営と撤収 ・写真撮影（主催者に提供） ・記録	・会場設営と舞台転換、撤収 ・司会進行 ・写真撮影（主催者に提供） ・記録
実施後	・チームかまいし連携支援事業の実施にかかる結果報告起案文書の作成 ・会場使用料支出の事務 ・地域連携だより記事掲載、発行、発送、HP掲載 ・ブログ発信	・チームかまいし連携支援事業の実施にかかる結果報告起案文書の作成 ・アンケート集計、グラフ等作成 ・アンケート結果公表(HP) ・地域連携だより記事掲載、発行、発送、HP掲載 ・ブログ発信

チームかまいし多職種連携支援事業 チームかまいしの役割分担例_2

	2/14在宅医療人材育成研修事業 「地域包括ケア時代の歯科の役割」	3/5「地域包括ケア研修会」 ※基幹病院×地域包括支援センター二次連携
主 催	岩手県歯科医師会、釜石歯科医師会	県立釜石病院
対 象	歯科医師会会員	県立釜石病院職員、圏内介護関係職員
実施前	・実施に関する関係者連絡調整 ・打ち合わせ会日程調整（一次連携） ・打ち合わせ（一次連携） ・ “ ” 実施結果起案 ・打ち合わせ会の会場借用に関する事務 ・研修開催日程に関する調整 ・GW実施内容案作成 ・GW当日用スライド作成 ・次第作成に関する連絡調整 ・配付資料印刷（町田・鳩岡）	・事業の実施についての提案（県釜・包括c） ・研修会実施に係る要項案の作成（7案）⇒県釜へ ・研修会実施日にかかる関係者日程調整 ・座長への打診、依頼、連絡調整 ・県釜担当者との事前打ち合わせ 計3回 ・役割分担表案の作成 ・座長、県釜、市 3者打ち合わせ（会場：せいてつ） ・上記打ち合わせに係る関係者日程・連絡調整 ・研修会実施に関する起案文書作成 ・講師（包括c補佐）への打診、依頼、連絡調整 ・介護関係職員あて案内文書作成と発送による周知 ・参加者とりまとめ ⇒県釜へ ・アンケート用紙の作成 ・当日配付用次第作成補助 ・司会進行表作成
当日	・会場設営、受付 ・ファシリテーター（GW進行） ・写真撮影と記録	・会場設営、受付 ・司会進行、全体調整 ・写真撮影と記録
実施後	・実施結果の起案文書作成 ・GW成果物の課題とりまとめ、分類 ⇒主催者へ提供 ・反省会（一次連携）日程調整、連絡調整 ・反省会実施と実施結果起案 ・連携だより記事掲載、HP掲載	・座長への謝金支給事務 ・実施結果報告起案文書の作成 ・アンケート集計、グラフ化⇒関係者に提供 ・地域連携だよりへの掲載、HP掲載

チームかまいしの相談支援【オ】

チームかまいしでは、一次連携等で抽出した課題を分類し、フィードバックすることで、課題を抱える当事者（包括ケアの担い手）自らが主体的に解決策を検討・実施するお手伝いをしています。さらに、課題解決の「場」や「手法」を検討して提案すること、あるいは共に検討したり共に実施することで、課題解決の支援を行っています。

◆◆チームかまいしの課題抽出の場◆◆

一次～三次連携の場（特に一次連携）、
資源把握、調査、相談窓口、等

◆チームかまいしの相談窓口機能

- ・ケース対応は基本行っていません。
包括支援センター等と役割分担済み。
既にある機能は奪わず活かす。
- ・職種間、病院・施設間などの連携に関する相談に対応

研修会でよくある質問

☞相談窓口は設置したが、どんな相談をうけたらよいかわからない。

☞既存の相談窓口との違いは？

《課題解決支援を実施した相談事例》

相談者	内 容	相談	解決策実施
薬剤師会	薬剤師会が受託した国のモデル事業実施に係るチームかまいしの参画依頼	H27	H28
NPO法人	釜石医療圏のICT利用促進を目的とした課題抽出・分類に関する依頼	H28	H29
病院看護部	病院職員対象「退院支援」に関する研修開催に関する相談	H28	H28
病院連携室	患者家族等が介護申請を受け付けてもらえないことがある	H29	H29
薬剤師会	地域包括支援センターの保健師との連携を推進する事業を実施したい	H29	H29
病院連携室	連携実務者の多職種連携の会を結成したい（OKスクラムねっと）	H29	H29

R7年度 チームかまいしが対応した相談の例



救急医療を担う
中核病院医師

院内で新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ患者が発生した場合、
圏域内の病院や施設によってローカルルール（？）があって、退院調整
に苦労している。

情報交換会（2次連携）を設定します。→地域のルール（案）策定

当事者:急性期病院医師、連携室看護師ほか

相手方:回復期病院看護師長、慢性期病院看護師長、老健施設看護師、など



チームかまいし
コーディネーター

前 提

当地域の合意事項
「中核病院を守る!」

急性期 病院	同一病棟内コロナ 患者なし		同一病棟内コロナ 患者あり	
	症状なし	症状あり	症状なし	症状あり
転院当日の 定性検査	不要	必要	必要	必要
	↓	(—)	(—)	(—)
転院先 患者受入	可	可	可	可

- ・「院内」ではなく「病棟」単位とする
- ・発症から10日目から検査なし
- ・不都合があればチームかまいしへ連絡してください。再調整いたします。

一次連携から 顔（腕・腹）の見える関係へ、そして、その先へ

平成24年度	9/3、12/、1/16
平成25年度	7/30、1/15
平成26年度	7/25、1/29
平成27年度	8/31、9/16
平成28年度	4/21
平成29年度	4/13、4/20（第1回病院薬剤師）
平成30年度	4/5
令和2～4年度	R2…8/4 R3…5/6
令和5年度	6/27、9/13、10/6
令和6年度	4/24、9/9
令和7年度	4/24、5/8



保健師や介護支援専門員に理解してもらえると薬剤師の専門性が“より”発揮できるのに…

釜石市の薬剤師より

①生活応援センターや
②地域包括支援センターに、
本当に相談してもいいの？
※①②の共通点は、
市の保健師が配置されていること



平成24年度
抽出課題

A ケアマネジャーの
顔が分からない

B 認知症？虐待？なんか心配
どこに相談すればよいの？

C ケアカンファレンス
に呼ばれない

D 訪問のきっかけが
つかめない

E 病院薬剤師と
薬局薬剤師の連携

F 「訪問指示」の
処方箋が来ない

G 薬剤師の職能が
認知されていない

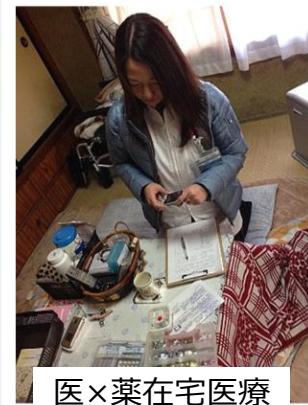
チームかまいしと釜石薬剤師会の連携による課題解決に向けた取組

年度	H24課題	～課題解決策～	二次連携・・・◆、ほか協働事業・・・◇
H24		△薬剤師居宅療養管理指導見学研修 実施（対象：チームかまいし）	
H25	C D F G G E ★ C D F G ★ A B C D G	◆医療機関・介護施設等へ同行訪問研修実施 計3回 ◇	薬剤師×保健師 連携推進の取組 患者宅への同行訪問
H26	C D F G G ★	◇	シンポジスト（薬・リハ・かま）
H27	G ★ C D E F G	◇	
H28	G G ★ B D G	◆ ◆患者のための薬局ビジョン推進事業検討会実施協力 計4回	
H29	B D G	◆多職種研修会「地域包括ケアにおける薬剤師の役割」実施	
H30	E B D E G E G ★	◆薬薬意見交換会実施 ◆患者のための薬局ビジョン推進事業検討会・報告会実施協力 計6回 ◇厚労省主催「在宅医療、介護連携推進事業意見交換会」事例紹介	
R01	G ★ E G	◇ ◆	
R03	G ★	◇	
R05	B G B G	◆薬剤師×市保健師「脳卒中発症リスク軽減の普及啓発キャンペーン」 ◆薬局を起点とした社会的処方連携の取組	

A～G
初年度に抽出した連携課題
の解決策を繰り返し実施

毎年、課題の抽出だけに時
間をとられていませんか？

だんだん課題が減ってきたよ
うな…。



医×薬在宅医療
同行訪問研修



保健師

薬剤師

★…チームかまいしの役割周知、薬剤師会と行政の連携による取組、及び周知 等

※その他、視察対応への協力多数あり

地域連携だより

Face to Face

第45号

役職等はすべて取材日時点のものです



令和3年度第3回・令和4年度第1回
釜石市地域ケア推進会議開催



当市の地域ケア推進会議は、▶日常生活圏域の課題を共有するための事例検討▶前回までの課題分析結果の共有と提言案の検討▶提言後の進捗確認とフォローアップの、3本柱で議事が構成されています。

特に、「事例検討」は、事例アセスメントシートを使用した事前課題も踏まえて、多様な立場（専門性）の委員が、各々の視点で課題を捉える重要なプロセスとなっており、地域に何が不足しているのか、自らの専門性で何ができるのか、様々な職種や立場の連携によって解決策となる可能性はないのか等を念頭に、話し合っています。

令和3年度
釜石市地域ケア推進会議が「**住民の生活と健康を支えるつながり支援**」を提言

釜石市：提言に対応する事業の一つとして
「**釜石市包括的支援の仕組みづくり事業**」を実施へ

【課題分析の手法】

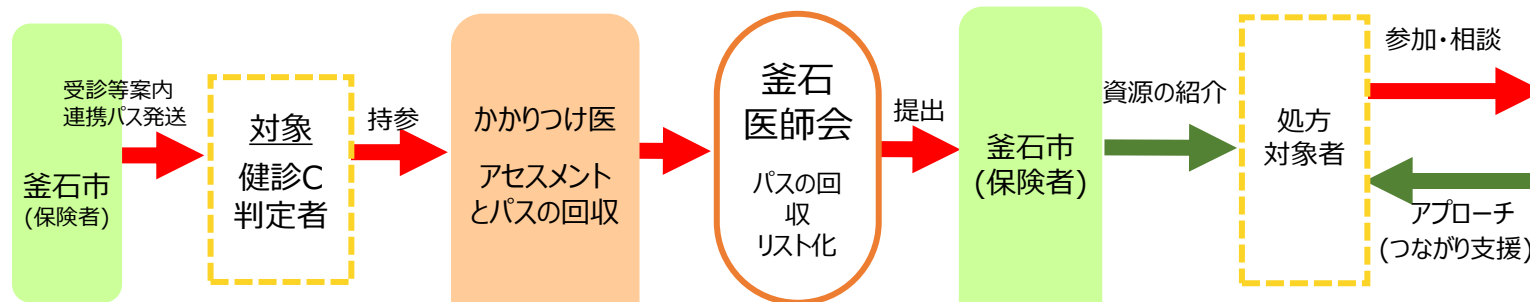
- ・共通のアセスメントシートによる事例報告
- ・アセスメントシートは以下の3つの分類に

孤立・孤独・不安 ～薬だけでは治せないこともあります～

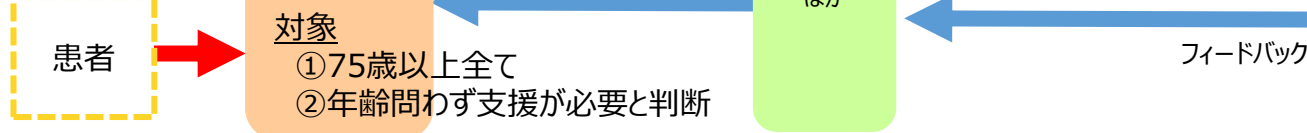
※社会的処方とは、医師が患者に薬を処方するように、課題を抱える方に対して、「薬（地域の活動やサービスなど）」を処方（つながりの支援）をする事で、本人の健康や幸福度の向上を目指しサポートする取組です。



① “健診”を起点とした社会的処方連携パス（継続）

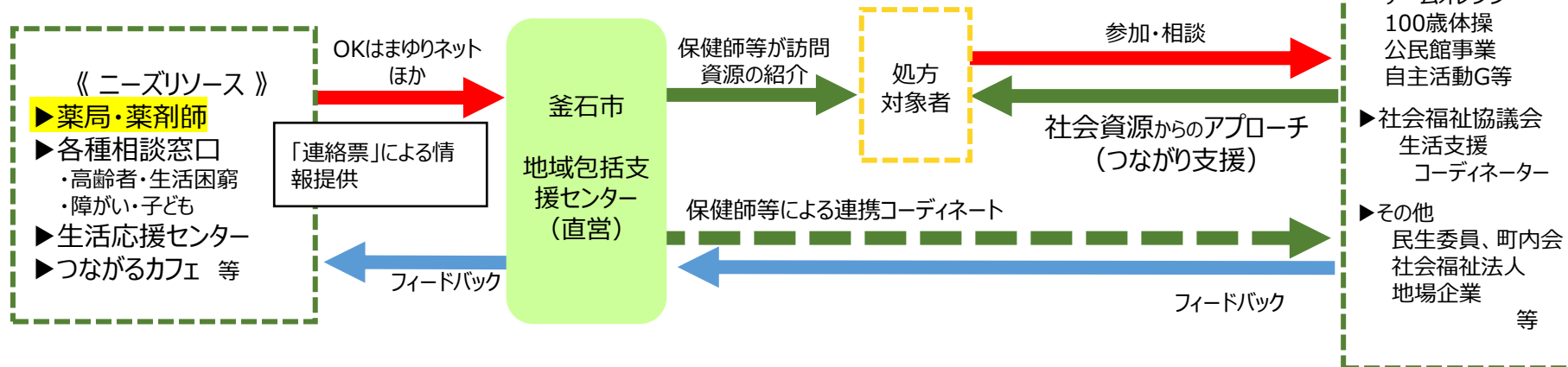


② “受診”を起点とした社会的処方連携パス（新）



③ “多機関・多職種”を起点とした社会的処方連携パス（案）

→③釜石薬剤師会との連携によるモデル事業実施へ



《社会資源》

- ▶地域包括支援C
保健師・ケアマネ
社会福祉士
- ▶薬局・薬剤師
- ▶各種相談窓口
・高齢者
・生活困窮
・障がい
・子ども
- ▶生活応援センター
公民館担当
保健師 ほか
- ▶保健事業
健康相談
栄養相談
減塩教室
禁煙教室等
- ▶地域の参加資源
つながるカフェ
チームオレンジ
100歳体操
公民館事業
自主活動G等
- ▶社会福祉協議会
生活支援
コーディネーター
- ▶その他
民生委員、町内会
社会福祉法人
地場企業 等

① “健診”を起点とした社会的処方連携パス（継続）

多機関・多職種といっても初めての取組なので職種を絞ってモデル的に実施したい。

byコーディネーター

《薬剤師会のニーズ》

- 保健師と連携したい。
- 行政（包括C・応援C）と連携したい。
- 薬剤師の職能を他職種に認知してもらいたい。

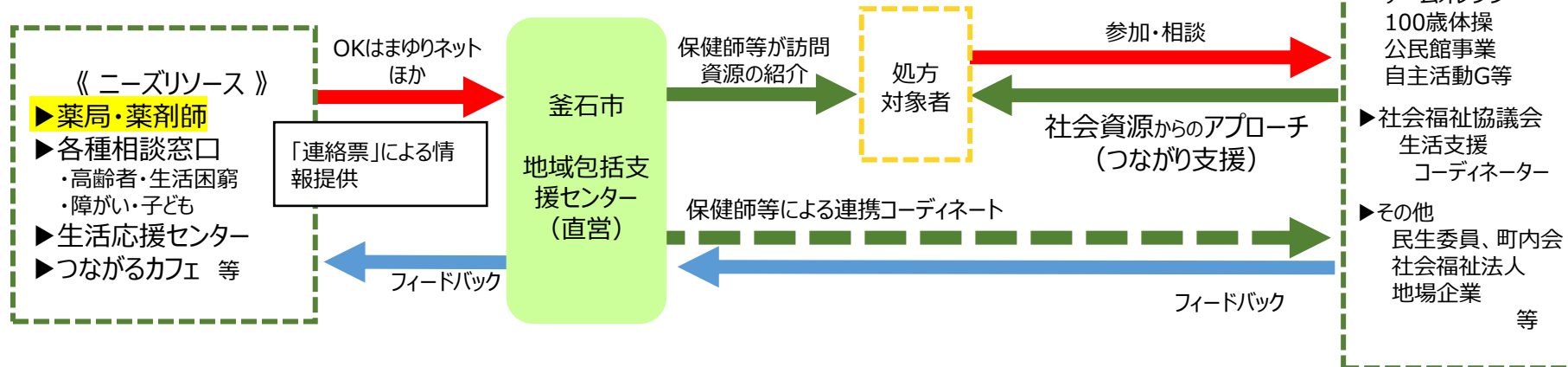
- ▶ ニーズにマッチした事業相談
- ▶ 顔・腕の見える関係性あり

《社会資源》

- ▶ 地域包括支援C
保健師・ケアマネ
社会福祉士
- ▶ 薬局・薬剤師
- ▶ 各種相談窓口
・高齢者
・生活困窮
・障がい
・子ども
- ▶ 生活応援センター
公民館担当
保健師 ほか
- ▶ 保健事業
健康相談
栄養相談
減塩教室
禁煙教室等
- ▶ 地域の参加資源
つながるカフェ
チームオレンジ
100歳体操
公民館事業
自主活動G等
- ▶ 社会福祉協議会
生活支援
コーディネーター
- ▶ その他
民生委員、町内会
社会福祉法人
地場企業
等

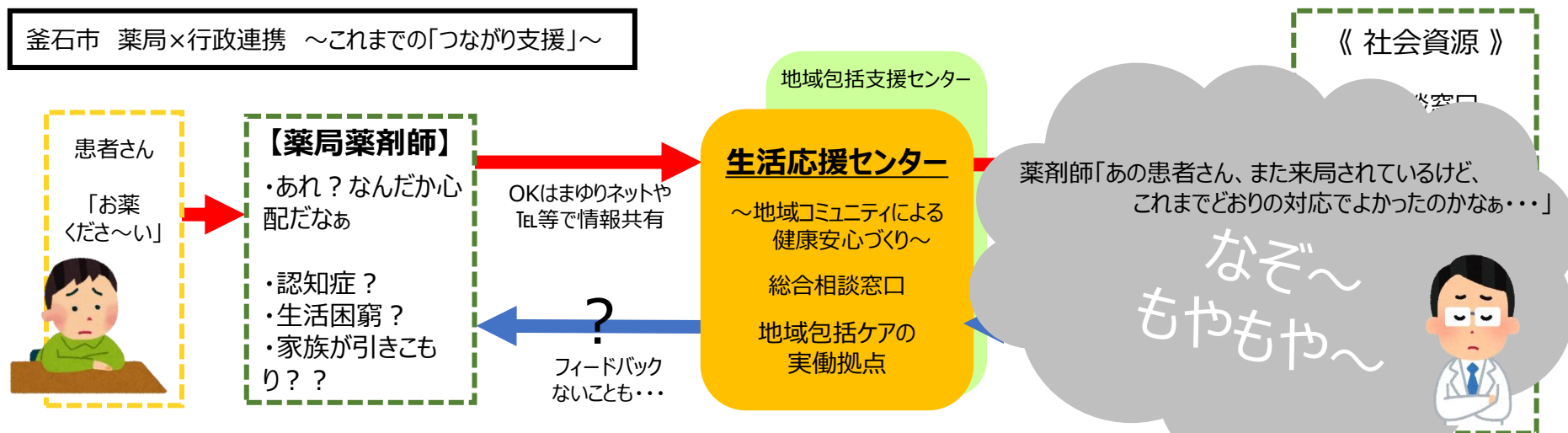
③ “多機関・多職種”を起点とした社会的処方連携パス（案）

→ ③ 釜石薬剤師会との連携によるモデル事業実施へ

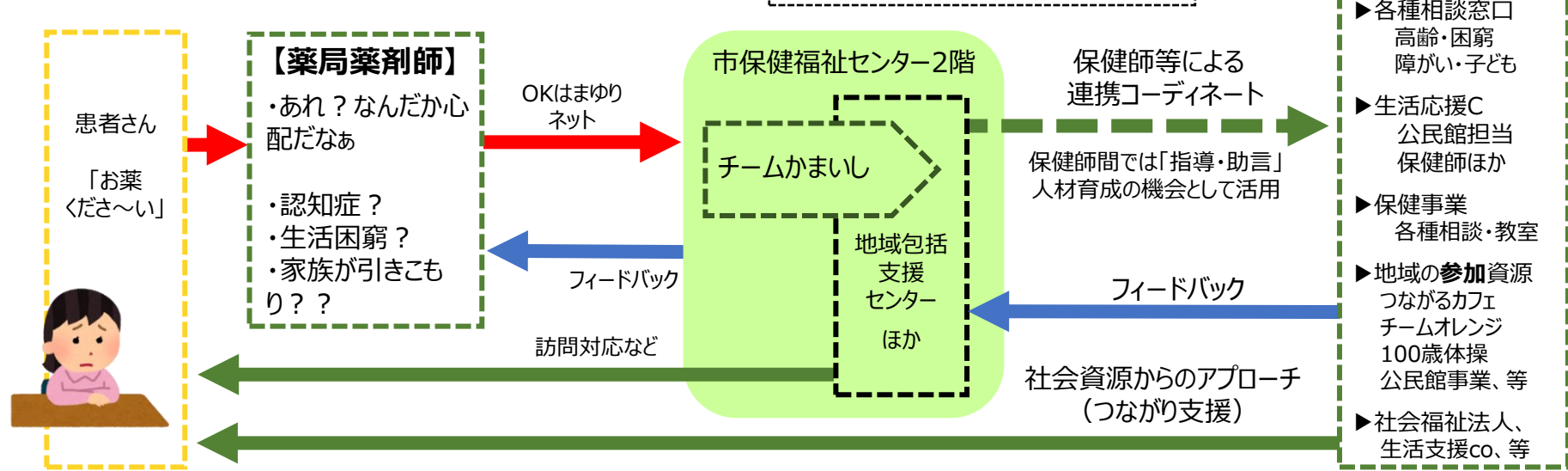


③ 薬局を起点とした社会的処方連携パス

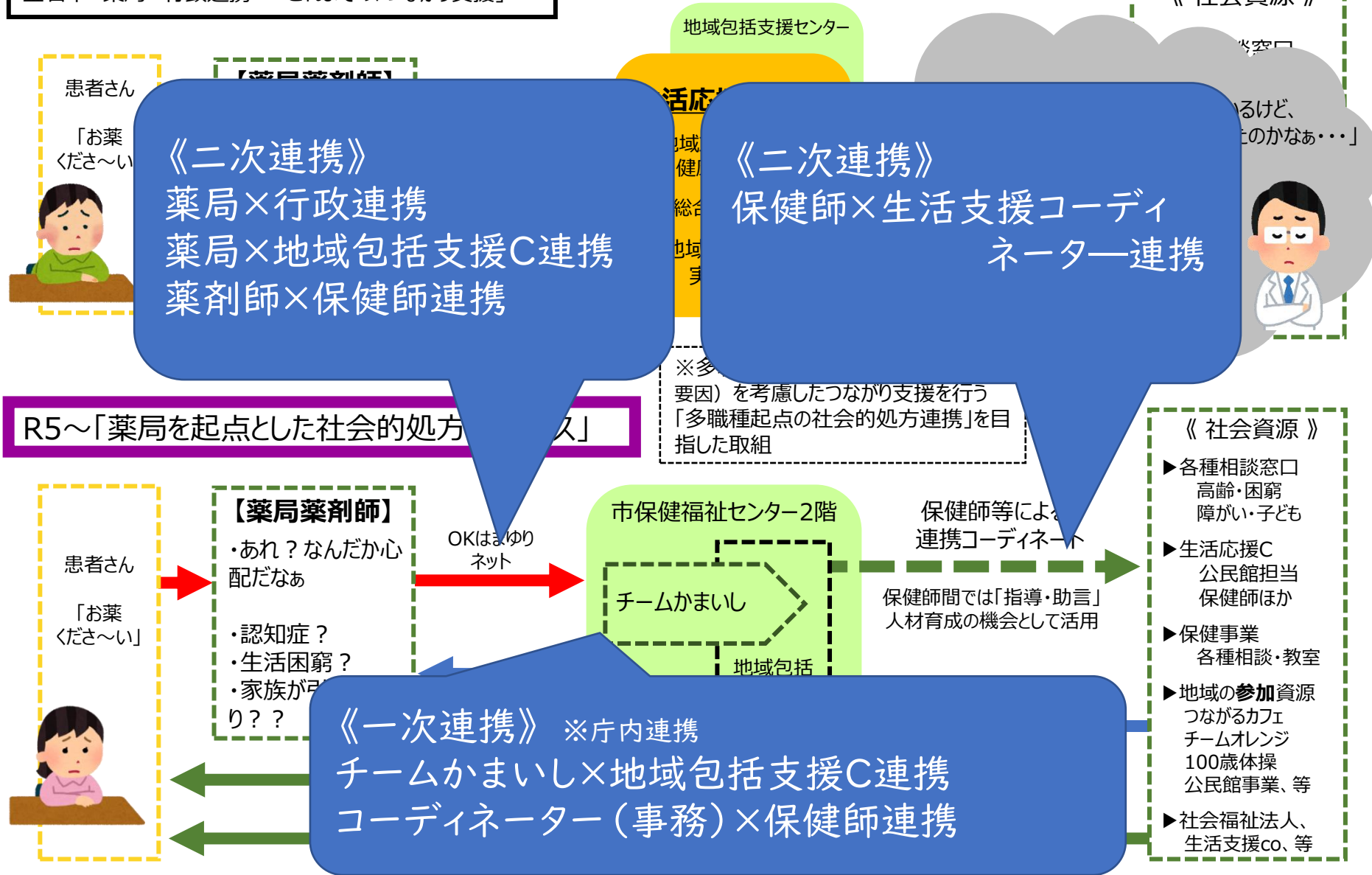
R5釜石市包括的支援の仕組みづくり事業



R5～「薬局を起点とした社会的処方連携パス」



釜石市 薬局×行政連携 ～これまでの「つながり支援」～



令和5年度 薬局（薬剤師）×行政連携（保健師）の取組の軌跡

連携の階層

6/27	薬剤師会×チームかまいし打合せ会 ・薬局を起点とした社会的処方連携パス ・薬剤師会主催研修について（支援の依頼あり）	一次連携
9/13	薬剤師会×チームかまいし打合せ会	多機関・多職種起 点の社会的処方連 携を目指して、 本年4年目の取組 が推進されています。
10/6	モデル薬局（3店舗）×地域包括支援センター等 ‘保健師’	
10/13	薬局を起点とした社会的処方連携スタート	
11/1	薬剤師会×釜石市共催「多職種連携研修会」開催 ～釜石市のつながり支援と多職種連携～	
		地域のコンセン サス形成
11/10	モデル薬局×地域包括支援センター等 ‘保健師’ 中間見直し打合せ会	二次
3/25	モデル薬局等×地域包括支援センター等 ‘保健師’ 反省会	二次



6/27薬剤師会打合せ会



10/6薬局×保健師打合せ会



11/10中間見直し打合せ会

チームかまいしの連携コーディネートの実例 ～ACP普及啓発の多職種協働体制ができるまで～

①コーディネーターのニーズ

ACPの普及啓発を進めたい。

②情報交換会

在宅医療・救急医療連携に関する情報交換会(令和3年2月ほか)

●住民対象・専門職対象のACPに関する普及啓発が必要・進めたいが単独では難しい。

病院関係者、消防関係者より

③情報交換会出席者へ

事業化する場合には、お声がけしますのでご協力お願いしますね。

④地域包括支援センター

令和3年度にキャッチした情報

●次年度は権利擁護の一環で終活やACP関係の研修会をやる予定なのですが...



⑤地域包括支援センターへの提案

病院と消防も参画した取組にしませんか？
当方と予算案分しませんか。
関係者の調整いたします。



コーディネーター

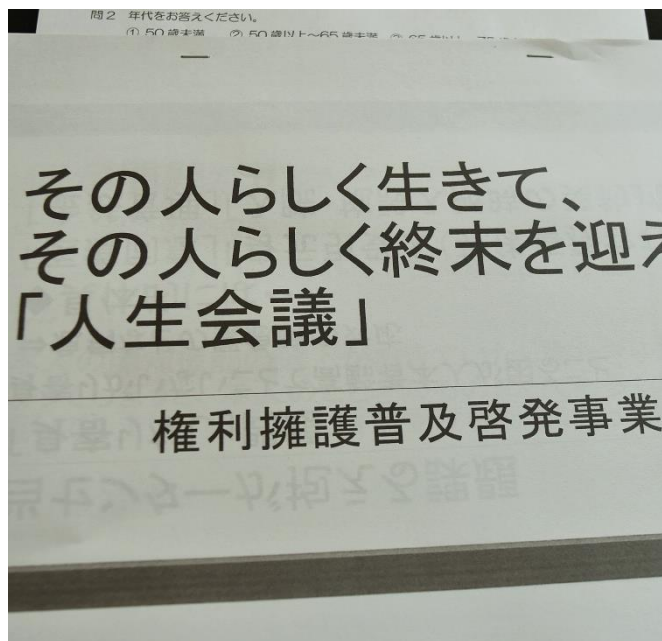
具体的な取組
はR4から

令和4年度 病院×地域包括支援センター ACP普及啓発協働体制ができるまで

実施日	実施内容	備考
5/25	在宅医療連携拠点事業推進協議会	三次連携
5/27	地域包括支援センター(直営)×県立釜石病院 ACP等普及啓発に関する事業実施に向けた打ち合わせ会	二次連携
6/17	住民対象「“人生会議”普及啓発」実施 (釜石地区) ※権利擁護普及啓発事業	包括C、病院 地ケア本部
7/25～	上記を初回として、 <u>市内8地区(計9カ所～)</u> で実施	包括C、病院
9/1	地域包括支援センター(直営)×県立釜石病院 住民向け、専門職向け研修会打ち合わせ会	二次連携
10/7	地域包括支援センター(直営)×県立釜石病院 専門職向け研修会打ち合わせ会	二次連携
12/20	介護支援専門員ほか多職種対象 「“人生会議”普及啓発」研修会	地域包括支援C、病院、 消防本部、地ケア本部



二次連携（打ち合わせ会の様子）



住民向け普及啓発の様子

主催：地域包括支援センター

県立釜石病院×地域包括支援センター
(チームかまいし二次連携、開催支援)

令和4年度釜石市権利擁護研修会～「人生会議」から考える権利擁護～

12月20日、釜石PITでハイブリッド形式による権利擁護研修会が開催され、介護支援専門員のほか医療・介護・福祉等のケアの担い手となる関係職員の参加がありました。

— 研修カリキュラム —

1. 講演：アドバンス・ケア・プランニング

～最期までその人らしく生きるために私達ができること～

講師：県立釜石病院 緩和ケア認定看護師 西明子氏

2. 講演：ACP「人生会議」とDNAR※の関連性について

講師：釜石大槌地区行政事務組合消防本部 消防課長 菊池俊氏



釜石大槌地区消防本部 菊池消防課長



もしバナカードゲームの実践

「もしバナゲーム」の実践講習が行われました。もしも、突然余命半年と言われたら、何をしたいか、何をしないかを考える機会となりました。

ACP＝アドバンス・ケア・プランニング（愛称：人生会議）は、意思決定能力が低下する場合に備えて、終末期を含めた今後の医療や介護等について、最後まで自分が思い描く生活を送れるよう、前もって話し合う事や、本人に代わって意思決定をする人を決めておくプロセスです。本人が「蘇生措置の拒否」を希望しても、意思が共有されず、医療行為が行われることもあります。ACPは今後の課題です。研修では、自分にとって大事な

多機関協働体制で、
本年5年目の取組が
推進されています。

※DNAR…Do Not Attempt

令和8年度
の取組

最後まで自分で決めたい私の人生

9/17(木)
入場無料

市民公開講座

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)

～地域で暮らし、ともに育てていく人生会議～

講演内容

人生会議（アドバンス・ケア・プランニング：ACP）
を通じて、自らの人生により彩りを加えていけるよう
市民の皆様をはじめ医療・介護関係者等の専門職
の皆様と一緒に「最期まで自分らしく生きること」
について学び、そして備えましょう。

講演：アドバンスケアプランニング（ACP）
について一緒に考えてみませんか？

講師：木村 祐輔 氏



主催：釜石市 共催：岩手県立釜石病院 後援：(一社)岩手県医師会・(一社)釜石医師会

地域連携だより「Face to Face」の発行

- 相互理解を目的とした医療や介護の専門職向け情報誌
- コンセプトは、情報誌版「顔の見える会議」
- 紙ベースで圏域の関係機関に送付のほか、釜石市HPに掲載

<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2019121900159/>



チームかまいし
Facebook

《主な掲載内容》

チームかまいし主催・共催事業、新規オープン施設等・職員紹介、
職能団体主催研修の周知、地域包括ケアの充実に向けた地域の活動紹介、等



「取材」～拠点が資源を把握するためのツールとして有効～

『支えられる側(一般住民)』には見えにくい『支え手』の取組の見える化



地域包括ケア連携拠点チームかまいしの取組 まとめとこれから

- 釜石市では、**チームかまいしの連携手法**をベースとして、
患者や利用者の生活の質の向上のため、ケアの担い手となる多機関・多職種との連携を推進する取組を推進しています。

▶ヒアリング（人を知る。相手の立場を知る。連携の課題を知る）

一次連携

▶顔の見える関係づくり

一次連携、二次連携

▶解決策の検討 または 検討の場の設定

一次連携、二次連携

▶解決策の実施 または 実施支援

二次連携、三次連携

▶取組の見える化

三次連携、ほか

R8年度後期 チームかまいしの主な取組予定

- ・チームかまいし定例会～アドバイザーとの情報共有・作戦会議～ 毎月1回
- ・チームかまいしFaceBook再開 新庁舎引っ越し後 ※9/24開庁式
- ・岩手県主催市町村等担当者研修会（開催協力） 10/1
- ・岩手県立釜石病院との情報交換会（一次連携） 10/22
- ・薬剤師会との事業打合せ会（一次連携） 10/5
- ・多職種対象研修会 ※薬剤師会との協働事業
- ・在宅医療・救急医療連携情報交換会（二次連携:病院×診療所×包括支援センター）
- ・保健師×第2層生活支援コーディネーター連携（二次連携） ほか